

2021(令和3)年9月5日

外務大臣 茂木敏充 様

一般社団法人 大学女性協会  
会長 加納孝代

### 現在のアフガニスタン情勢に鑑みた緊急人道支援対策の強化を求める要望書

アフガニスタンにおいてイスラム主義組織タリバーンが首都を制圧し大統領府を掌握した後、当地における治安が極度に悪化し、混乱が続いていると報じられております。

大学女性協会は、「女性の高等教育の向上」、「男女共同参画社会の推進」、「国際協力と世界平和」を目指して1946年に創設された、全国に24の支部を持つ、会員数700名の一般社団法人です。1954年にはジュネーヴに本部を置く国際NGOの現GWI(Graduate Women International, 当時の名称はIFUW, 1919年創立)に、日本を代表する団体として加盟し、「平和な社会づくりの要となる女性の高等教育の普及と推進」という使命を果たすべく、世界52カ国の加盟協会と協働し、活動してまいりました。

GWIは、アフガニスタン情勢の急変を受け8月19日に緊急声明を発し、国連諸機関、国際機関および各国政府に対して、とくに危惧されている、当地の女性と女兒への著しい人権侵害防止のために、あらゆる手段を講じるようにと、強く要請しました。本協会の会員中には2002年に発足した「アフガニスタン女子教育支援のための五女子大学コンソーシアム」に関わった者もおります。彼女は十数年にわたりカブールでの教員育成支援やバーミヤンでの学校作りなどの積極的活動を行ってきました。本協会では勉強会を開き、彼女の経験を通じてアフガニスタンについての学びを深めております。

こうした経緯の中、大学女性協会では多くの会員が、このたびのアフガニスタン情勢を懸念・憂慮しております。最も避けるべきは、過去20年にわたる、日本をはじめ世界各地からの復興支援により進んだ女性に対する教育の努力が後退ないし無に帰することです。あらゆる教育活動の基礎である、同地における日常生活の回復と、それを可能にする治安の回復を願わずにはおられません。両国間で人の交流が可能になった暁には大学女性協会としてその小部分なりとも支える役割を果たしたいと思っております。そのような日が一日も早く来ますように切望してやみません。

各国ならびに各機関、各勢力に対しては、意思決定に際して、弱い立場に置かれた人々、とりわけ女性や女兒の身体的、精神的安全を最優先とする選択をしてくださいますようお願いいたします。多くの人々が危機に直面している今、日本国政府におかれましては、まずは緊急人道支援対策の強化を図るとともに、これまでの人道主義に基づく外交政策の積極的且つ忍耐強い堅持への取り組みの継続を要望いたします。

以上